

五色名句百選かるたを活用した俳句創作授業

—五色名句百選かるたの効果に着目して—

黒川 晴菜

香月 正登

Haiku Creation Lessons Utilizing the Goshiki Meiku Hyakusen Karuta

-Focusing on the Effects of the Goshiki Meiku Hyakusen Karuta-

Haruna Kurokawa

Masato Katsuki

要 旨

本研究は、五色名句百選かるたを活用した俳句創作授業を实践し、五色名句百選かるたの俳句創作における効果を探ることを目的とする。従来の俳句教育では「五・七・五」の形式に重点が置かれているが、かるたを通じて児童はより自由に想いを表現できるようになるのではないかと考える。実践授業では、五感を引き出し俳句の創作活動を行い、五色名句百選かるたを活用し、かるた活動前後で児童の俳句にどのような変化が生まれるのか調査する。その後アンケート調査を行い、児童の変化を明らかにする。多くの児童が俳句に対するイメージを変え、創作に対して積極的な態度を示した。特に、かるたの楽しさが俳句創作に対する興味を引き出し、リズムや季語を意識しながら表現力を高めることが確認された。本研究は、五色名句百選かるたの俳句創作における教育的有効性を示すものとなった。

キーワード：五色名句百選かるた 俳句創作 俳句へのイメージ 表現技法

1. 研究の目的

1-1 動機

俳句は、国語教育において重要な役割を果たしている。五・七・五という定められた型で、見たものや感じたこと、想いを季語や切れ字を用いて表現し、言葉のリズムや調子に親しみ、表現力や想像力を養うことができる。五・七・五という短い音にするためにことばを選び、表現したい想いをことばにする。小学三年生から国語の教科書で教材として俳

句が扱われ、季節や季語、言葉のリズムに親しむ活動や俳句を創作する活動が授業として行われている。

稿者は、小学六年生のときに五色名句百選かるたを学級活動の一環として毎朝行っていた。五色名句百選かるたは、TOSS オリジナル教材で TOSS とは、Teachers' Organization of Skill Sharing の略で向山洋一を代表とする「すべての子どもに価値ある教育を。」を目指す民間教育研究団体である。五色名句百選かるたとは、春、夏、秋、冬、新年の五つの季節を五つの色に分け、各二十句ずつ計百句の季節の俳句が書かれたかるたである。また、五・七・五の最後の五音が句のイメージを表したイラストで描かれており、三分という短い時間で日本の古き良き伝統である俳句に親しむことができる。

五色名句百選かるた 指導の手引き（2018：2）では、五色名句百選かるたについて以下のように述べている。

百人一首に革命を起こした「五色百人一首」。その俳句版ともいえるのが、「五色名句百選かるた」です。百人一首は教えるのが難しいといわれてきました。「五色百人一首」は百人一首を五色に分けることによって、短時間で手軽に、教室や家庭で楽しみながら学べるようになりました。「100枚覚えるのが大変だ」「試合時間がかかり過ぎる」という2つの欠点を、新しいシステムによって克服したのです。このシステムをそのまま活用し、俳句のおもしろさやすばらしさを教えていこうとしたものが「五色名句百選かるた」です。

俳句には、日本人の感性を培ってきた四季を表現する”季語”があります。“季語”は俳句だけのものです。五・七・五という最も短い文章構成です。「五色名句百選かるた」は、選び抜かれた言葉を洗練されたイラストでイメージできます。また、かるたを通して季語の知識や言葉のリズムを身に付けることで、子供たちがとまどうことなく、より豊かに自分の思いを表現できるようになります。

五色名句百選かるたを小学五年生の時に知り、休み時間に友達や先生と五色名句百選かるたを行い、小学校を卒業してからは、月に一度行われている伝統文化教室に参加し、幼稚園児から高校生までのさまざまな年齢の子どもたちと五色百人一首と五色名句百選かるたを行ってきた。五色百人一首と五色名句百選かるたを始める前は俳句に興味はなく、季語があり、五・七・五で詠まれているものというイメージしか持っていなかった。

しかし、五色名句百選かるたを始めてからは、五・七・五のリズムに注目したり、俳句をリズムで詠むことで俳句の切れを意識することができたり、五・七・五という決まった形でなくてよいなど俳句に対するイメージがどんどん広がり、俳句の面白さを少しずつ感

じていた。授業で俳句を詠むときは五・七・五のリズムを感じることができず、字余り・字足らずでなく五・七・五で俳句を創作することを意識していた。

五色名句百選かるたを通して学ぶ俳句と授業を通して学ぶ俳句には楽しさや親しみやすさが違うと考える。俳句の楽しさ、面白さをもっとたくさん子どもたちに感じてもらうために五色名句百選かるたを活用した研究を行いたいと考えたのが本研究の動機である。

1-2 目的

本研究の目的は、五色名句百選かるたを活用した俳句創作授業を実施し、五色名句百選かるたの俳句創作における有効性を明らかにすることである。そこで、まず、五色名句百選かるたを活用した俳句の創作授業が行われているのか、先行実践の調査を行う。次に、五色名句百選かるたを活用した俳句創作授業を行い、実践前と実践後の俳句創作の比較を行う。さらに、アンケート調査を実施し、調査から児童の俳句に対するイメージの変化や、表現技法の変化、俳句の変化、授業記録から得られる児童の変化を比較・分析し、五色名句百選かるたの俳句創作に対する有効性を明らかにする。

2. 先行実践の検討

2-1 五色名句百選かるたを発行した TOSS の教育サイトでの活用の仕方

TOSS LAND には、25,428 件の指導案や指導方法が掲載されている。「五色名句百選かるた」をキーワード検索すると以下の 9 件の実践が挙げられている。

<9 件／全 25,428 件>

- | | |
|------------------------------------|-------------------|
| ① 服部嵐雪 ～五色名句百選かるた～ | 島村雄次郎 (2013-3-27) |
| ② 「五色名句百選かるた」指導案 服部嵐雪 | 島村雄次郎 (2013-3-27) |
| ③ 五色名句百選かるた 最初の指導 | 三島麻美 (2013-3-27) |
| ④ 「五色名句百選かるた」で季語を学ぶ | 三島麻美 (2013-3-27) |
| ⑤ 「五色百人一首」軸に学級崩壊を立て直す方法 | 鈴木恒太 (2013-7-25) |
| ⑥ TOSS 五色名句百選かるたを一字読解で分析する | 永井貴憲 (2013-3-27) |
| ⑦ 「五色名句百選かるた」の新しい遊び方 ～覚えないと負けるゲーム～ | 永井貴憲 (2013-3-27) |
| ⑧ 木がらしや目刺にのこる海のいろ 実践記録 | 武田晃治 (2014-1-5) |

先行研究からは、五色名句百選かるたの活用方法が3つ読み取れる。

1つ目が、②五色名句百選かるたの中の一句を抽出し、自分なりにその俳句を絵に表す。
2つ目が、⑤学級経営を立て直すために五色百人一首をコミュニケーション、人間関係の構築として活用する。この実践では五色百人一首が国語の導入5分間に活用されている。⑨も同様に導入の5分間に五色名句百選かるたを行う。

3つ目が、①④⑥⑧の実践である。実践内容は、①④⑥⑧俳句かるたの中の一句を抽出し、その句の内容や情景、季語、季節を考えさせる授業である。

この先行実践から、五色名句百選かるたを授業として活用している実践はなく、導入の5分間や五色名句百選かるたの中の一句だけを活用しているだけで、実際に五色名句百選かるたを活用した授業実践がないことが読み取れる。

2-2 明治図書ホームページでの五色名句百選かるたの活用の仕方

明治図書は、日本の教育系出版社のなかで大手の出版社である。明治図書には、10,000件の無料記事が掲載されている。「五色名句百選かるた」をキーワード検索すると184件の記事が掲載されていたが、教育記事には俳句の創作活動の授業実践は掲載されていなかった。創作活動の授業実践だけでなく、五色名句百選かるたを活用した授業実践がなかったのだ。

この先行研究から、日本の教育出版の大手である明治図書に五色名句百選かるたの教育実践が掲載されていないということは、五色名句百選かるたを活用した実践を行っているのはTOSSの民間教育研究団体の教員だけだと考える。

2-3 研究仮説

以上の先行実践から、五色名句百選かるたはコミュニケーションや、俳句の情景や季語、季節を考えさせるために活用されていたことが読み取れる。しかし、研究の動機でも述べたように、五色名句百選かるたは俳句創作の教材として大きな可能性があると考えられる。

五色名句百選かるたを本来のかるた競技として活用し、俳句の創作の活動に焦点を当てた授業が行うことで児童の想像力や思考力を広げるとともに、調子やリズムに親しむことができるのではないかと考える。

また、詠み手が五・七・五のリズムに合わせて俳句を詠むことで、児童は、耳からリズムを拾い、五・七・五というリズムを自然と身に付けることができるのではないかと考える。ただ、俳句を詠むよりも、カルタを通して五・七・五のリズムを身に付けることで、俳句の切れなどにも自然と着目させることができるのではないかと考える。

本研究では、五色名句百選かるたを活用した俳句創作授業を実践し、五色名句百選かるたが児童の俳句に対するイメージや俳句の創作に変化を与えるのではないかという仮説をもとに研究を進める。

3. 研究の方法

3-1 授業実践の方法

本研究では、五色名句百選かるたを活用した俳句創作の授業実践とそれに伴うアンケート調査を行い比較・分析する。実践は次の要領で（表①）（表②）（表③）行った。

表②では、授業実践を行うに当たっての指導案を示す。表③では、授業実践後のアンケート調査内容を示す。本研究は、実験授業であるため意図的な指導は一切行わない。

〈表① 小学生への検証要領〉

	五色名句百選かるたを活用した俳句創作授業		
対象	下関市立川中小学校 3クラス 83名		
日時	5-1 25名	5-2 30名	5-3 28名
	2024年11月25日	2024年11月25日	2024年11月26日
	10:35-11:20	8:40-9:25	10:35-11:20
	11:25-12:10	9:30-10:15	11:25-12:10
時間	45分×2		

〈表② 授業実践 本時案〉

学習内容・学習活動	主な発問・指示（4～5つ）	指導の具体（○）と評価（*）
① 俳句を提示し、五感を引き出す 「古池や 蛙飛び込む 水の音」 (8分)	○何が見えますか カエルは何匹いますか どんな音が聞こえますか	○俳句のリズムだけでなく、情景や音やにおいなど五感で読み取るという面白さを引き出す。
② 写真を5枚提示する (5分)	○どんなにおいがしますか どんな音がしますか	○1枚1枚提示して、音やにおい、肌で感じることなどを想像させる。
(めあて) 俳句づくりにチャレンジしよう！		

<p>③俳句創作の活動</p> <p>・ 5枚の写真から1枚写真を選び俳句を創作する (18分)</p> <p>④五色名句百選かるた「冬札」を行う</p> <p>・ ルール説明 (7分)</p> <p>・ 俳句を詠む (7分)</p> <p>休憩</p> <p>・ ペアで競技 (23分)</p> <p>※毎試合違う人で行う</p> <p>⑤俳句を清書する (15分)</p> <p>⑥アンケート (7分)</p>	<p>○俳句を創作しよう！ 想像したことや情景をメモ書きしよう</p> <p>○かるたをしてみてもう感じましたか。</p> <p>○書き換えたくなった人は書き換えよう！</p>	<p>○悩んでいる児童に五感を引き出す声かけをする。 (机間指導)</p> <p>○俳句を詠んで、面白い！自分の俳句にも取り入れたい！と感じた俳句や、かるたの感想を引き出す</p> <p>○書き換えたいなどがない児童は、清書をする。 書き換えたい児童は、②で作成した俳句の修正などを行い1句清書する。</p>
--	--	--

〈表③ 授業実践 ワークシート〉

☆ 俳句を清書しよう！

☆ 俳句を作ろう！ () 番の写真

めあて

() 年 組 番 氏名 ()

メモ



①導入では、「古池や 蛙飛び込む 水の音」の俳句を活用する。この俳句を導入で活用する理由は、小学校三年生国語科「俳句を楽しもう」(光村図書)で扱われており、児童が一度学習したことのある俳句であるからだ。また、この俳句は児童にとって、五感や情景を引き出しやすい俳句だと考える。何が見えるのか、かえるは何匹見えるのか、どんな音・においがするのかを引き出し、俳句の情景を想像させる。全体で感じた五感を共有し、一人ひとり想像する情景が違うということと五感を抑え、俳句を詠む楽しさを味わう。

②次に、冬の写真を一枚一枚ゆっくり提示し五感を引き出す。計五枚の写真を提示し、好きな写真で俳句を創作する。

- ・雪だるまの写真
- ・雪合戦をしている写真
- ・初詣の写真
- ・クリスマスツリーの写真
- ・鍋の写真

③俳句の創作活動では、②の中から一枚好きな写真を選び創作する。「創作してみよう！」とだけ指示を出し、創作活動の時間をとる。創作できない児童には、「ワークシートのメモ欄を活用し②で想像した情景や五感を書き出すといいよ」と声掛けをし、②で想像したことがなくならないようにする。

④五色名句百選かるたを行う。かるたのルール説明を行い、冬の五色名句百選かるたにどのような俳句が書かれているのかペアで見る。その後、かるた活動を行う。

⑤清書活動では、③で創作した俳句を清書しても良い、書き換えたり、新たに創作したりするのも良いと伝え、清書活動に入る。

〈表④ 授業実践 アンケート内容〉

☆アンケート (年 組 番 氏名)

① 俳句のイメージは変わりましたか？

はい ・ いいえ

○をつけてね！



☆こんな風に変わった！

() から ()

ヒントになる言葉◎

むずかしい たのしい にがて すき きらい おもしろい

② 1回目の俳句づくりで意識したことに✓をしてください◎ 〈例〉 ✓季語

季語 五七五 五七五と違ったリズム 言葉を繰り返す 音

③ 2回目の俳句づくりで意識したことに✓をしてください◎

季語 五七五 五七五と違ったリズム 言葉を繰り返す 音

味 におい 見たもの 肌で感じたこと 触った感覚

や、かな、けりなどの言葉を使う

④ カルタ遊びは俳句づくりの役に立ちましたか？ に✓してね◎

役に立った 少し役に立った

あまり役に立たなかった 役に立たなかった

⑤ 俳句かるたの中で好きな句はありましたか？どこが好きですか？

() 番の俳句

() が好き！

ご協力ありがとうございました◎

アンケート調査では、①で俳句のイメージの変化を問う。言語化が苦手な児童やどんなことを書いたら良いか分からない児童のためにヒントとなる言葉を手立てとして用意する。②、③では、俳句づくりで意識したことを問う。1回目の創作と2回目の創作でどのような変化が生まれたかを知るために同じ項目を示す。④では、五色名句百選かるたが俳句づくりの役に立ったかを四者択一で問う。最後に、⑤で五色名句百選かるたの中で好きな俳句があるかを問う。児童がどのような俳句を好むのか、その俳句のどこが好きなかを問うことで、その児童がどこに着目しているのかを読み取る。

3-2 比較・分析の方法

本研究は、アンケート調査とワークシートをもとに以下の4つの観点から比較分析を行う。

①イメージの変化

②表現技法の変化

③俳句の変化

④五色名句百選かるたの効果

①イメージの変化では、以下のアンケート結果をもとに分析を行う。

Q. 俳句のイメージは変わりましたか？ はい ・ いいえ

また、どのように変化したのかを自由記述にすることで児童の変化を捉える。

②表現技法の変化では、表現の自由化と以下のアンケート結果をもとに分析を行う。

Q. 1回目の俳句づくりで意識したことに✓してください。

Q. 2回目の俳句づくりで意識したことに✓してください。

どちらも選択肢は同一とし複数選択を可にして調査を行った。選択肢は以下の通りである。

・季語 ・五七五 ・五七五と違ったリズム ・言葉を繰り返す ・音 ・味 ・におい ・見たもの ・肌で感じたこと ・触った感覚 ・や、かな、けりなどの言葉を使う
--

③俳句の変化では、ワークシートを活用し1回目の創作と2回目の創作で児童の俳句がどのように変化したのか分析を行う。

④五色名句百選かるたの効果では、以下のアンケート結果をもとに分析を行う。

Q. カルタ遊びは俳句づくりの役に立ちましたか？

このアンケートは、四件法を用い傾向性をより捉えられるようにする。(以下に示す)

・役に立った ・少し役に立った ・あまり役に立たなかった ・役に立たなかった

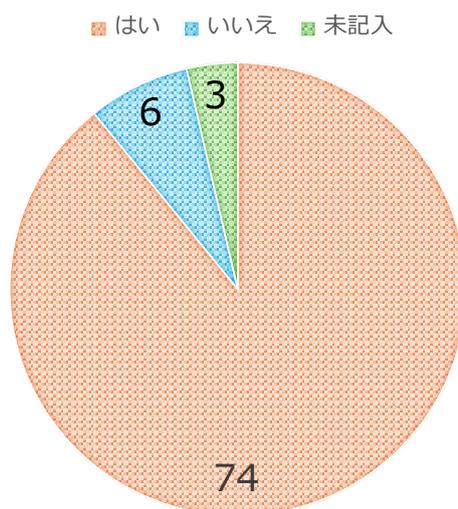
また、1回目の創作と2回目の創作で児童の俳句の数にどのような変化が生まれたのか分析を行う。

4. 研究の結果と分析

4-1 イメージの変化についての比較・分析結果

イメージの変化についてのアンケート結果を以下に示す。

①俳句のイメージは変わりましたか



合計83人

約90%の児童が俳句のイメージが変わったと回答した。ここで注目したいのが俳句に対するイメージがどのように変化したのかという点である。まず、児童が初めに持っていた俳句のイメージを表①で示す。次に、変化したイメージを表②で示す。最後に、特に注目した児童の俳句のイメージの変化を示す。(表①、表②では1名のみ児童は省略する)

〈表① 初めに持っていた俳句のイメージ〉

- ・むずかしい、むずかしそう 30人
- ・苦手、やや苦手 12人
- ・楽しい 8人
- ・面白い 3人

- ・興味がない、関係ない 3人
- ・すき 3人
- ・普通 2人
- ・嫌い 2人

〈表② 変化した俳句のイメージ〉

- ・楽しい 29人
- ・面白い 29人
- ・すき 12人
- ・もっとやりたい 2人

〈児童のイメージ変化〉

- すき → めっちゃめっちゃすき

これは、①俳句のイメージは変わりましたか。というアンケートでいいえと回答していた児童の気持ちの変化である。もともと俳句が好きだった児童が、授業を通して俳句に対する気持ちが大きくなっていることが読み取れる。めっちゃめっちゃは児童にとって大きな変化ではないか。

- 五七五 → 自由でいい

多くの児童が俳句作りの際に五・七・五という型にとらわれていた。指を折りながら、「1文字足りない」、「7文字にするのが難しい」と呟いていたがカルタ活動後は自由に創作する姿が見られた。また五色名句百選かるたを詠む活動では、五色名句百選かるたの「水鳥や むかふの岸へ つういつうい」の繰り返し言葉である「つういつうい」に着目している児童が多く、同じ言葉を繰り返している言葉に興味を持っていた。また、担任の先生に「俳句って五・七・五ですね？」と聞いている児童も見られ、俳句＝五・七・五というイメージが定着しているように感じた。

- 興味がない → 俳句がたのしい

興味がないは結構俳句を突き離しているように感じるが、その児童が五色名句百選かるたを活用した授業を通してたのしいとイメージが変化したのは五色名句百選かるたの影響が大きいのではないかと考える。

- 昔の言葉があって苦手 → たのしい

五色名句百選かるたは旧仮名遣いが使われているので、五色名句百選かるたを詠む活動でも「どんな意味だろう？」「なんて読むの？」など旧仮名遣いに興味関心をもっている児童が多くいた。俳句や絵から「この言葉はこんな意味じゃない？」と友達同士で

話し合っている児童も多く見られ、かるたの絵から自分たちで意味を想像して読めることが楽しいというイメージに変わったのではないかと考える。

4-2 表現技法の変化についての比較・分析結果

アンケート項目で特に注目した以下の3つの項目と表現の自由化について示す。

①五・七・五 ②言葉を繰り返す ③や、かな、けりをつかう

3項目において、1回目の俳句づくりと2回目の俳句づくりでの児童の人数の変化を表①で示す。言葉を繰り返す、や、かな、けりなどの言葉をつかうについては実際の児童の例を以下に示す。

〈表① 1回目の俳句づくりで以下の項目を意識した児童の人数〉

五・七・五	59人	→	51人
言葉を繰り返す	4人	→	11人
や、かな、けりなどの言葉をつかう	4人	→	9人

1回目の創作で意識したことの中で、一番多かったのが五・七・五と回答した59人の児童だ。意識したことの中で70%以上の児童が五・七・五と答えているのは、俳句＝五・七・五が一番印象強いイメージだからだと考える。しかし、2回目の創作で五・七・五を選択した人数が減少したことは、五色名句百選かるたの字余り・字足らずの影響が出ているのではないかと考える。

○言葉を繰り返す

《 児童A 》 「はくさいは なべのてーばん もぐもぐもぐ」

《 児童B 》 「カニうまい グツグツグツグツ いいにおい」

《 児童C 》 「キャベツぼい にんじんぼい しめじぼい」

児童A・Bは、三句と二句で同じ単語を繰り返し聞こえる音を強調している。児童Cは、初句・二句・三句すべての箇所「ぼい」という単語を繰り返し活用し俳句を創作している。

児童A・児童Bは、「水鳥や 向かふの岸へ つういつうい」という俳句の「つういつうい」の繰り返し言葉に影響されているのではないかと考える。

○や、かな、けりなどの言葉をつかう

切れ字についての変化では、アンケートで✓をしていなかった児童も切れ字を活用した俳句を創作しており、「かな」「や」「けり」「し」「よ」の切れ字が活用されていた。これらの切れ字は、以下の俳句に影響されたと考える。また、児童が切れ字を活用しどのような俳句を創作したのかは、4-3 俳句の変化についての比較・分析結果にて示す。

- ・玉川の 一筋光る 冬野かな
- ・小春日や 石を噛みみる 赤蜻蛉
- ・いくたびも 雪の深さを 尋ねけり
- ・霜強し 蓮華と開く 八ヶ岳
- ・とび下りて 弾みやまずよ 寒雀

○表現の自由化

《 児童 A 》 「はくさいは なべのてーばん もぐもぐもぐ」

《 児童 D 》 「熱くなり だらーんととける 雪だるま」

児童Dに、なぜ伸ばし棒を入れたのかと問うと「だらーんにすることでよりだらだらしてそうだから」と答え自分の伝えたい思いを強調するために伸ばし棒を活用していたことがわかる。また、清書の際に左下に自分の名前を書く児童や、創作した俳句のイメージを絵で表現する児童も見られた。

4-3 俳句の変化についての比較・分析結果

3名の児童の俳句に着目し、比較・分析を行う。

《 児童 E 》

1回目の創作 「熱々で グツグツなってる おいしそう」

↓

2回目の創作 「熱々で グツグツなりけり おいしそう」

清書 「具だくさん みんなでなべだ かこみけり」

児童Eは、五色名句百選かるた活動後1回目の俳句を修正し、もう一句新たに俳句を創作した。この俳句の変化から、五色名句百選かるたの以下の俳句にある切れ字「けり」に影響されていると考える。

【 五色名句百選かるた 】

「いくたびも 雪の深さを 尋ねけり」 「大根引き 大根で道を 教えけり」

「流れたる 花屋の水の 氷ほけり」

《 児童 F 》

1回目の創作 「あの日の夜 少しさわがしい かまくらの中」

↓

清書 「あの夜や 少しさわがしい かまくらの中」

児童Fは、五色名句百選かるた活動後1回目の俳句を修正した。この俳句の変化から五色名句百選かるたの以下の俳句にある切れ字「や」に影響されていると考える。

【 五色名句百選かるた 】

「木がらしや 目刺しにのこる 海のいろ」 「小春日や 石を噛みゐる 赤蜻蛉」

「水鳥や むかふの岸へ つういつうい」 「ながながと 川一筋や 雪の原」

「夢に舞う 能美しや 冬籠」 「斧入れて 香におどろくや 冬木立」

《 児童G 》

1回目の創作 「うれしいな プレゼントがある クリスマス」

↓

清書 「あさぼらけ ほしいものあり ありがたや」

児童Gは、一回目の俳句創作後新たに俳句を創作した。清書の俳句をみると、この児童は俳句かるたの以下の俳句にある繰り返し言葉「定め」に影響されていることがわかる。また、ありがたやの切れ字「や」も俳句カルタに影響されていると考える。

【 五色名句百選かるた 】

「大晦日 定めなき世の 定めかな」

4-4 五色名句百選かるたの効果についての比較・分析結果

かるた遊びは俳句作りの役に立ちましたか？というアンケートの結果を以下の表①で示し、俳句の数の変化を表②で示す。

〈表① かるた遊びは俳句作りの役に立ちましたか アンケート結果〉 ※未記入 1名

	5-1 (2回)	5-2 (3回)	5-3 (4回)	合計
役に立った	11人	18人	22人	51人
少し役に立った	13人	10人	5人	28人
あまり役に立たなかった	0人	1人	0人	1人
役に立たなかった	1人	1人	0人	2人

()内の数字は、五色名句百選かるたの競技数である。競技数が多ければ多いほど五色名句百選かるたが俳句作りの役に立つと答える児童が多い。また、全体的に見てもほぼ全ての児童が「役に立った」「少し役に立った」と回答しており、俳句創作に五色名句百選かるたが有効的だと言える。

〈表② 俳句の数の変化〉

	5-1	5-2	5-3	合計
増えた	14人	19人	14人	47人
変化なし	9人	10人	10人	29人
創作できた	2人	1人	4人	7人

1回目の創作から五色名句百選かるた活動後の2回目の創作で俳句の数が増えた児童は、全体の約56%である。数に変化がなかった児童は、全体の約34%で1回目に創作した俳句が気に入ったからとほとんどの児童が回答した。特に注目したいのが、俳句が創作できた児童である。この7人は、1回目の創作の時間に想像した単語だけを書いており俳句創作ができていない児童だった。この実践は実験授業であるため7人の児童に対し、俳句を創作するための声掛けなどは行っていない。しかし、五色名句百選かるた活動後すべての児童が俳句を創作することができたため、五色名句百選かるたが俳句創作に有効的であると考える。

5. 考察

本研究では、五色名句百選かるたを活用した俳句創作授業を行い五色名句百選かるたの俳句創作における効果に着目して研究を行った。結果として、児童の俳句に対するイメージが大きく変化し、俳句創作に対する興味や積極性が向上したことが確認された。特に、五・七・五の形式にとらわれず、自由な表現が可能になったことが大きな成果である。また、五色名句百選かるたを通じて季語やリズムに親しむことで、俳句の表現力が向上したことが明らかになった。

児童の約90%が俳句に対するイメージが変え、楽しい・面白いと感じるようになった。これは、五色名句百選かるたが俳句の楽しさや親しみやすさを引き出す効果があることを示している。五・七・五の形式にとらわれず、自由な表現が増え、言葉を繰り返す技法や

切れ字の使用が増加した。これにより、児童はより創造的に俳句を創作することができるようになった。

また、五色名句百選かるたを活用することで、俳句創作に対する積極性が向上し、創作する俳句の数も増加した。特に、1回目に俳句創作ができなかった児童が、五色名句百選かるたを通じて俳句創作のヒントを見つけ、俳句に対する興味を持ち、積極的に創作に取り組む姿が見られた。これは、かるたが児童の興味を引き出し、俳句創作のハードルを下げる効果があることを示している

五色名句百選かるたは、俳句を楽しむための有効な教材であり、より多くの子どもたちに俳句の魅力を伝えることができる。

6. 成果と課題

本研究の成果は、五色名句百選かるたを活用することで児童の俳句に対するイメージを変え、児童の俳句に対する興味関心を深めることができたことだ。また、五色名句百選かるたの自由な表現が児童に影響を与え、児童は俳句創作に自由性をもち、児童の自己表現力が向上した。意図的な指導は一切行っていないにもかかわらず、児童の俳句に変化が起きたということは、五色名句百選かるたが俳句創作に非常に有効に働いたと言える。

意図的な指導を行っていないにもかかわらず、このような変化が起きたということは、切れ字や繰り返し言葉などに焦点をあて指導を行うことでより俳句創作に変化が生まれると考える。

また、五色名句百選かるたを活用した授業を継続的に行うことで、さらに児童の表現力や創作意欲を高めることができると考える。そのためには、五色名句百選かるたをどのように活用し、俳句創作の授業を行うことがより有効なのか検討を重ねていくことが本研究の課題である。

引用・参考文献

- ・如月真菜(2008)『写真で俳句をはじめよう』ナツメ社
- ・岸本尚毅 夏井いつき (2018)『「型」で学ぶはじめての俳句ドリル』祥伝社
- ・岸本尚毅 夏井いつき (2021)『ひらめく！作れる！俳句ドリル (単行本)』祥伝社
- ・小西来山 (2008)『名句百選かるた指導案 夏 C-17 水踏んで 草で脚ふく 夏のかな』
ホームページ：[名句百選かるた指導案 夏 C-17 水踏んで 草で脚ふく 夏野かな](#)
[小西来山 - ヒデオの実践](#) (最終閲覧 2024 年 9 月 2 日)

- ・島村雄二郎 (2013) 『TOSS LAND 「五色名句百選かるた」指導案 服部嵐雪』
ホームページ：[「五色名句百選かるた」指導案 服部嵐雪 | TOSS ランド](#) (最終閲覧 2025年1月31日)
- ・島村雄二郎 (2013) 『TOSS LAND 服部嵐雪 ～五色名句百選かるた～』
ホームページ：[服部嵐雪 ～五色名句百選かるた～ | TOSS ランド](#) (最終閲覧 2025年1月31日)
- ・白坂洋一(2021) 『名文に学ぶ授業に役立つ書くコツ! 3』岩崎書店
- ・鈴木恒太 (2013) 『TOSS LAND 「五色百人一首」軸に学級崩壊を立て直す方法』
ホームページ：[「五色百人一首」軸に学級崩壊を立て直す方法 | TOSS ランド](#) (最終閲覧 2025年1月31日)
- ・武田晃治 (2014) 『TOSS LAND 木枯らしや目刺にのこる海のいろ 実践記録』
ホームページ：[木枯らしや目刺にのこる海のいろ 実践記録 | TOSS ランド](#) (最終閲覧 2025年1月31日)
- ・『TOSS とは WHAT IS TOSS?』
ホームページ：[TOSS とは | TOSS 公式ウェブサイト](#) (最終閲覧 2025年1月31日)
- ・『TOSS LAND 明日の授業を5分で準備! 指導案・授業コンテンツ共有サイト』
ホームページ：[TOSS ランド](#) (最終閲覧 2025年1月31日)
- ・刀祢敬則 (2008) 『歯にあてて雪の香ふかき林檎かな 授業指導案』
ホームページ：[歯にあてて雪の香ふかき林檎かな 授業指導案 - TOSS 中学教師 教師力アップへの道](#) (最終閲覧 2024年9月2日)
- ・永井貴憲 (2013) 『TOSS LAND TOSS 五色名句百選かるたを一字読解で分析する』
ホームページ：[TOSS 五色名句百選かるたを一字読解で分析する | TOSS ランド](#) (最終閲覧 2024年9月2日)
- ・永井貴憲 (2013) 『TOSS LAND 「五色名句百選かるた」の新しい遊び方 ～ 覚えないと負けるゲーム～』 ホームページ：[「五色名句百選かるた」の新しい遊び方 ～覚えないと負けるゲーム～ | TOSS ランド](#) (最終閲覧 2025年1月31日)
- ・夏井いつき (2018) 『夏井いつきの世界一わかりやすい俳句の授業』PHP 研究所
- ・夏井いつき (2016) 『夏井いつきの超カンタン! 俳句塾』世界文化社
- ・沼田直樹 (2024) 『TOSS LAND 川とノリオ【第1次】』
ホームページ：[川とノリオ【第1時】 | TOSS ランド](#) (最終閲覧 2024年9月2日)
- ・星野椿(2008) 『これからはじめる俳句入門』ナツメ
- ・三島麻美 (2013) 『TOSS LAND 五色名句百選かるた 最初の指導』
ホームページ：[五色名句百選かるた 最初の指導 | TOSS ランド](#) (最終閲覧 2025年1月31日)
- ・三島麻美 (2013) 『TOSS LAND 「五色名句百選かるた」で季語を学ぶ』

ホームページ：[「五色名句百選かるた」で季語を学ぶ | TOSS ランド](#)（最終閲覧 2025 年 1 月 31 日）

・向山洋一（2018）『五色名句百選かるた 指導の手引き』 株式会社東京教育技術研究所

ホームページ：[s（新規 2018）手引書_02.indd](#)（最終閲覧 2025 年 1 月 31 日）

・『明治図書 教育記事』

ホームページ：[検索結果：キーワード「五色名句百選かるた」 - 明治図書オンライン](#)
（最終閲覧 2025 年 1 月 31 日）